# はじめに

## 1. 本書に至るまでの経緯

本書は、これまでに佐藤貴之（北九州市立大学）、中原大介（福山平成大学）、そして坂本の 3 人で取り組んできた研究成果をまとめたものである。まずは、本研究に取り組むまでに至った経緯から紹介をさせていただきたい。それによって、本書の性格が読者諸氏にもおわかり頂けるのではないかと考えるからである。

さて、本研究の発端は、坂本の職場の先輩であり、同僚でもある佐藤が坂本に「福祉分野において ICT を活用した教育の先行研究が見られない。一緒にしないか？」というお声かけであった。これが 2012 年であった。その後、「公益財団法人科学技術融合振興財団調査研究助成事業課題」として助成金の採択をいただき、教育システム情報学会を中心として研究に取り組み始めた。さらに 2013 年には北九州市立大学平成 25 年度特別研究推進費にも採択をして頂き、最初のシステムを導入することができた。

その後、坂本の前職で同僚であった中原へ、坂本からお声かけをさせていただき、2013 年に坂本が代表となる形で科学研究費補助金の申請をさせていただいた。幸いにも、この科学研究費補助金にも採択を頂くことができ（JSPS 科研費 26330403）、2014 年度から 2017 年度までの 4 年間、3 人による研究活動を続けることができた。そして、ここまでの研究成果について、ここに本書のような形で発表をさせていただくこととなった。なお、本書の出版に当たっては、北九州市立大学平成 29 年度学長選考型研究費Ｂ区分による出版助成を受けた。

本書に至るまで、2012 年から足かけ 6 年間の研究活動は、非常に順調であったように思われる。これは、三者三様のチームワークがあったからだと思われ

る。3 人の専門は多様であり、佐藤は教育工学、中原は保育学、そして坂本は社会福祉学であり、文理を超えた異分野連携による研究活動であったが、常にコミュニケーションを密に取りながら、進めることができたことが、順調に進めることができた大きな要因であろう。

## 2. 本書のねらい

冒頭に紹介させて頂いたような経緯から、本書は読者諸氏の手元へと届けられるに至ったわけであるが、そのねらいは、単なる自己満足的研究成果の公表ではない。2011 年に厚生労働省によって、介護福祉士養成の実務者研修で、通信教育の積極的活用並びにインターネットの利用した教育の展開が提起されるなど、福祉専門教育において情報通信技術（以下、ICT：Information Communication Technology）を活用することの社会的要請は高まっている。

一方で、教育実践としての先行研究では、管見の限りでは、2012 年頃には古瀬・井上（2012）によってブログを活用した現場と連携した介護福祉実習の研究発表があるぐらいであった。その後、2014 年には原（2014）が発表され、ICT を活用したシミュレーションプログラムを用いて、子ども虐待事案への対応を学習する研究成果が示された。しかし、福祉専門教育での ICT の活用ニーズに対して、その知見の積み上げは不十分であったと言える。このような現状を踏まえ、社会福祉士や介護福祉士といった福祉職と、幼稚園教諭や保育士といった保育者をそれぞれ養成する教育現場において、ICT を活用したより効果的な福祉専門教育の教育プログラムを開発し、その学習効果について明らかにすることを目的に、著者らはこれまで取り組んできた。

我々が作成し、取り組んできた教材の対象は、社会福祉士養成課程における模擬面接と、保育者（幼稚園教諭・保育士）養成教育における模擬保育、サービスラーニング（Service Learning、地域貢献活動体験型学習）である。これ以外に ICT の活用について検討してきたテーマとしては、介護福祉士国家試験受験資格取得における実務者ルートと呼ばれた介護職実務者研修、社会福祉士養成課程における現場実習指導（相談援助実習・相談援助実習指導）があ

る。理論的研究から実証的研究までの幅は、ある意味一貫性の無さでもあるが、我々としては福祉や保育の専門職を育てる教育領域において、「研究すべきテーマがいかに多数存在しているか」というように認識している。

本書では、筆者らなりに取り組んできた研究成果を世に問い、まずは福祉職・保育者養成教育に携わっている教員に興味・関心を持っていただき、学習者にとってより教育効果のあるICTを活用した教材作成と教育実践について、多様なご意見を頂戴したいと願っている。同時に、教育工学分野を中心とした情報科学を専門とする研究者や大学院生、学生等には、福祉職・保育者養成教育の現場におけるいわば「お作法」や「文化」のようなものを、本書を通して理解していただき、新たな共同研究の発展へとつなげていっていただければ幸いである。

## 3. 本書の構成

本書の内容は、これまでに我々が発表してきた論文を基に加筆修正したもの、あるいはほぼ書き下ろしのものによって構成されている。各章の初出についてはこの後に一覧にしているので、そちらをご覧いただきたい。章構成としては各テーマを発表してきた時系列に並べるのでは無く、「福祉職・保育者養成教育においてICTを活用することにより、どのようにすればより深い学びと質の高い支援スキル獲得をめざすことが可能なのか」、という軸となるテーマを置き、そこから章立てを行った。

まず理論編として、第1章では教育工学の立場から社会福祉教育に対してどのようなアプローチが可能なのかを検討し、その考え方について提起した。続いて第2章では、福祉領域では「不真面目な」と評価されてしまう「ゲーム」を活用した教育のあり方について検討を行った。

次に第3章以降は実践編という位置づけとした。第3章から第6章では、社会福祉士養成教育課程における対人援助の基礎となる支援的コミュニケーションスキルの獲得を目指した演習課題「模擬面接」に焦点化し、ICTの活用としてどのような教材を設計することが可能かを検討することから始まり、

LMS（Learning Management System、学習管理システム）のひとつであるMoodleに実装するモジュールを開発、教材として試行的に実施及び評価、改善、ルーブリックの作成、そして教材としての評価分析までを内容として扱っている。第7章では保育者養成教育における専門的スキル獲得を目的とした演習課題「模擬保育」に焦点化し、先に開発したモジュールを応用し、その教育効果の評価分析を扱っている。

第8章以降は「模擬面接」及び「模擬保育」以外のテーマへと対象を拡げた。第8章は介護福祉士教育においてICTの活用について検討を行っている。第9章では、サービスラーニングにおけるICTを活用した教育実践事例について紹介をしている。そして第10章では、社会福祉士養成課程における福祉施設・機関での現場実習（相談援助実習）での実務及び学生指導・支援に関する課題解決として、ICTの活用について検討を行っている。

本書はできるだけ、第1章から読み進めていただいた方が良いだろうという考えで章立てを行った。もちろん、各読者の好きなところから読んでいただいても構わない。また、本書は既出論文を編纂した経緯から、内容的に重複が見られるが、その重複は必要と判断した。冗長と感じられるかも知れないが、あらかじめご容赦願いたい。

## 謝　　辞

本研究はJSPS科研費26330403の助成を受けたものである。本書出版にあたっては、北九州市立大学平成29年度学長選考型研究費B（出版助成）の助成を受けた。改めてここに記すと共に、感謝の意を表わす。

### 参考文献

(1)　原佳央理（2014）『子ども虐待対応のための教育訓練実践モデル ― 修正デザイン・アンド・ディベロップメント（M-D&D）を用いて ―』学術出版会。

(2)　古瀬徹・井上登記子（2012）「介護福祉士養成教育へのIT利用 ― 教材としての介護現場からのブログ ―」（所収：『第20回日本介護福祉学会大会　発表報告要旨集』）。

## ■論文初出一覧

各章の基となった論文の初出は、以下の通りである。いずれも共著論文ではあるが、筆頭著者が責任を持って各章を加筆修正したことを踏まえて、各論文共著者の合意に基づき、各章は単独による分担執筆という形とした。

第 1 章　教育工学による社会福祉教育へのアプローチ

以下の論文を参考に、新規書き下ろし。

・佐藤貴之、坂本毅啓（2013）「福祉専門職教育における情報技術を用いたシステム導入の検討」『教育システム情報学会　研究報告』教育システム情報学会、第 28 巻第 1 号、p.74-p.79。

第 2 章　ゲームを活用した教育の検討

以下の論文を参考に、新規書き下ろし。

・佐藤貴之、坂本毅啓、浅羽修丈（2014）「シリアスゲームによる福祉専門職教育用教材の提案 ― 事例検討の学習教材としての可能性 ― 」『教育システム情報学会　研究報告』教育システム情報学会、第 29 巻第 3 号、p.11-p.14。

第 3 章　社会福祉士養成における模擬面接をより効果的に行うための教材の設計

・佐藤貴之、坂本毅啓（2014）「社会福祉士養成における模擬面接をより効果的に行うための教材の設計」『教育システム情報学会　研究報告』教育システム情報学会、第 28 巻第 5 号、p.107-p.114。

第 4 章　社会福祉士養成教育における模擬面接での ICT 活用によるコミュニケーションスキル獲得

・坂本毅啓、佐藤貴之（2014）「スマートフォンによるコミュニケーションスキル獲得を目指した教材の開発 ― 社会福祉士養成教育における模擬面接での活用とその学習効果 ― 」『教育システム情報学会　研究報告』教育システム情報学会、第 29 巻第 4 号、p.49-p.54。

第 5 章　社会福祉士養成課程における 模擬面接教材のルーブリック作成

・坂本毅啓、佐藤貴之、中原大介（2017）「社会福祉士養成課程における模擬面接教材のルーブリック作成」『教育システム情報学会　研究報告』教育システム情報学会、第 31 巻第 6 号、p.49-p.154。

第 6 章　社会福祉士養成課程における ICT を活用した模擬面接教材の評価分析

・坂本毅啓、佐藤貴之、中原大介（2018）「社会福祉士養成課程における ICT を活用

した模擬面接教材の評価分析」『教育システム情報学会　研究報告』教育システム情報学会、第 32 巻第 6 号、p.125-p.132。

第 7 章　保育者養成教育における模擬保育への ICT 活用

以下の論文を基に、新規書き下ろし。

・中原大介、佐藤貴之、坂本毅啓（2015）「保育者養成教育における模擬保育への ICT 活用の検討」（教育システム情報学会　第 40 回全国大会）、p.353-p.354。

・中原大介、坂本毅啓、佐藤貴之（2016）「保育者養成教育における模擬保育用動画教材の形成的評価」（教育システム情報学会第 41 回全国大会）、p.317-p.318。

・中原大介、坂本毅啓、佐藤貴之（2017）「模擬保育への ICT 活用とその評価について」『第 1 回研究大会　プログラム・抄録集』（日本保育者養成教育学会　第 1 回研究大会）、p.38。

・中原大介、坂本毅啓、佐藤貴之（2017）「保育者養成教育における早期体験教育・初年次教育への ICT 活用の検討」（教育システム情報学会第 42 回研究大会）、p.399-p.400。

第 8 章　介護職員等実務者研修におけるシリアスゲーム活用の検討

・坂本毅啓、佐藤貴之（2012）「介護職員等実務者研修におけるシリアスゲーム活用の検討」『教育システム情報学会　研究報告』教育システム情報学会、第 27 巻第 4 号、p.34-p.37。

第 9 章　サービスラーニングにおいて ICT を活用した実践例とその教育効果

・坂本毅啓、佐藤貴之、中原大介（2015）「サービスラーニングにおいて ICT を活用した実践例とその教育効果」『『教育システム情報学会　研究報告』教育システム情報学会、第 30 巻第 2 号、p.59-p.64。

第 10 章　社会福祉士養成教育における相談援助実習指導支援システムの提案

・坂本毅啓、佐藤貴之、中原大介（2017）「社会福祉士養成教育における相談援助実習指導支援システムの提案」（教育システム情報学会第 42 回研究大会）、p.275-p.276。

福祉職・保育者養成教育における ICT 活用への挑戦

― より深い学びと質の高い支援スキル獲得をめざして ―

# 目　次

はじめに ……i

第１章　教育工学による社会福祉教育へのアプローチ …… 1

第１節　情報科学・教育工学の視点による福祉教育の現状　1

第２節　福祉職従事者の ICT 活用に対する意識　4

第３節　他領域における ICT 活用教育の進展　6

第４節　福祉教育において有用な教育工学の知見　8

第２章　ゲームを活用した教育の検討 …… 14

第１節　介護福祉士養成教育の動向　14

第２節　シリアスゲームとは何か　15

第３節　福祉専門職のゲームに対する意識　16

第４節　福祉教育におけるシリアスゲーム導入の検討　20

第５節　まとめ　24

第３章　社会福祉士養成における模擬面接をより効果的に行うための教材の設計 …… 26

第１節　はじめに　26

第２節　社会福祉士養成教育のカリキュラム　27

第３節　模擬面接の教育方法とその課題　29

第４節　模擬面接用教材の設計　31

第５節　まとめと今後の課題　34

第４章　社会福祉士養成教育における模擬面接での ICT 活用によるコミュニケーションスキル獲得 …… 37

第１節　はじめに　37

第２節　教材の全体概要　38

第３節　教材を使用した授業実践と評価　39

第４節　実施後の学生アンケート結果　41

第５節　おわりに　44

第５章　社会福祉士養成課程における模擬面接教材のルーブリック作成 … 46
第１節　はじめに　46
第２節　これまでに作成した教材とその効果　46
第３節　模擬面接教材におけるルーブリックの作成　47
第４節　おわりに　53

第６章　社会福祉士養成課程における ICT を活用した模擬面接教材の評価分析 …… 56
第１節　はじめに　56
第２節　教材の概要と授業の展開　56
第３節　教材の評価分析　58
第４節　教材としての学習効果　61
第５節　今後の改善点　64
第６節　おわりに　66

第７章　保育者養成教育における模擬保育への ICT 活用 …… 69
第１節　はじめに　69
第２節　保育者養成教育と実践力　69
第３節　教材の概要　74
第４節　本研究によって期待される効果と課題　75
第５節　模擬保育用動画教材の準備　77
第６節　模擬保育の実施と評価　82
第７節　早期体験教育、初年次教育への活用可能性　87
第８節　まとめ　93

第８章　介護職員等実務者研修におけるシリアスゲーム活用の検討…… 95
第１節　はじめに　95

第２節　介護人材確保をとりまく現状　96
第３節　実務者研修の教育内容とその課題　101
第４節　シリアスゲーム活用の検討　103
第５節　おわりに　104

第９章　サービスラーニングにおいて ICT を活用した実践例とその教育効果 …… 105
第１節　はじめに　105
第２節　授業概要　106
第３節　授業実践方法　111
第４節　形成的評価　113
第５節　まとめ　116

第 10 章　社会福祉士養成教育における相談援助実習指導支援システムの提案 …… 119
第１節　はじめに　119
第２節　社会福祉士養成教育における相談援助実習及び相談援助実習指導の特質　119
第３節　実習・実習指導における実務的及び教育的課題　120
第４節　実習指導支援システムの提案　122
第５節　おわりに　123

資料編 …… 125

おわりに …… 144

著者紹介 …… 146